

コミュニケーション基礎『レポート作成法』テキストの改訂

Textbook on “How to Write a Report” for a Basic Communications Course

<プロジェクト・メンバー>

又平 恵美子^{†1} 多田 知子^{†1} 稲積 宏誠^{†2} 大野 博之^{†3}

Matahira Emiko^{†1} Tada Tomoko^{†1} Inazumi Hiroshige^{†2} Oono Hiroyuki^{†3}

^{†1} 青山学院大学 社会情報学部

^{†1} School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†2} 青山学院大学大学院 社会情報学研究科

^{†2} Graduate School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

^{†3} 東京医療保健大学 医療保健学部

^{†3} Healthcare Informatics, Tokyo Healthcare University

Abstract: In the Basic Communications class, students are asked to do a writing assignment that uses data, maps it on a chart, and explains it using numerical values. Textbooks used in classes also feature technical explanations on how to use data, rather than general reporting texts. The focus is on how to choose the form of a diagram, the appearance of a diagram, the basic description method, and the explanation and exercises of the description of the diagram. The text has been revised seven times and will be reborn for a new class in this eighth revision. This paper describes the revisions to date and the prospects for new textbooks produced by the final revision.

キーワード: テキスト, レポート作成法, 電子書籍, 改訂

Keywords: Textbook, How to write a Report, Online Book, Revise

1. はじめに

「コミュニケーション基礎」は、社会情報学部の1年次の必修科目として、レポートや論文作成能力の基礎となる、論理的な文章を書くことと、またその基礎となる基本的なデータ処理技術を学び、それらを組み合わせて文書化できるようになることを到達目標としている。

文章表現の基本に関する全6回の講義・演習は、学習内容としては積み上げ式になる。用例や用法など

の参考資料も多くあるため、全体を統括した一つのテキストとして随時参照しておけるようにしたほうが、学生にとって実用的である。そのため、2017年度より、研究センター「日本語プロジェクト」の支援を得て、テキストを作成することとなった。その後も毎年、次年度の学習内容に合わせた本文の改訂作業と、練習問題の追加執筆、電子書籍版の作成を行い、2023年度用で第7版となった。

本稿はこれまでの「コミュニケーション基礎」のテキストである『レポート作成法』の改訂について統括し、8回目となる最終改訂により、新版テキストとして生まれ変わる『データを使ったレポート作成』

(2024 年度「社会情報ナビゲーション」)における展望を述べるものである。

2. テキストのねらい

「コミュニケーション基礎」では、データを利用し、図表に起こし、数値を使って説明する文章課題を出題している。テキストも一般のレポート作成用とするものではなく、データをいかに使うかに特化した技術の解説を特徴としている。図表の形式の選び方、図表の体裁、基本的な記載方法、図表解説文の解説と演習に重点を置いている。学習の集大成となる総合課題も複数の図表解説文を含むものとしている。

これらの課題とテキストの改訂において、最も困難であったのはデータの選定である。テキストの本文内において、レポート作成時の注意事項として、無断転載を禁じているため、テキスト自体にも同じルールが適用されることになる。そのため、例示や課題においてオリジナルの図表しか使用できないことが毎回の改訂時に最も複雑な問題となっていた。社会情報を扱う学部であることから、時代を反映したテーマがふさわしくなるため、改訂のたびにテキストや問題文を差し替えなければならないという事態が続いていた。

この困難については、2023 年度より青山学院大学のオリジナルデータを利用することで、改善を図ることができた。青山学院大学と全国の大学の比較、社会情報学部生と全学部生の比較、男女別や出身校地別などの学生数のデータを組み合わせて、どのような傾向が読み取れるか、関連しあう事象は何かという観点から問題が作成できる。具体的には、例えば、推移に着目した場合、特徴的な数値が表れている年度には、新しい学部の創設やキャンパス移転など特別な出来事があり、その結果が学生数に反映していることがある。また、男女別の学部の指向性の変化や、地元志向の強まる時期などについても、傍証となる資料を引用して説明する問題が作成できる。

1 年生にとって共通して関心が持てるデータであり、取り組みやすく、課題として取り上げることの必然性もある。しかも、青山学院大学の学生数に関するデータ自体は公開されているものでありながら、イン

ターネット上の検索には出てこないタイプのものである。データの組み合わせ方によって複数パターンの課題が作れる上、最新データは毎年更新されるものである。そのため、いわゆる不正レポートを生み出しにくいということでも利点がある。

新版のテキストも、このデータを基本としたものとなる。

3. テキスト本文の改訂

テキストは、文体・図表・文献利用・構成の4項目についての解説をする内容となっており、これまでの改訂においては、授業の進行手順の変更等によって、それらの学習項目の配置を入れ替えたこともあった(又平・多田・稲積 2021)。それにより、例えば、図表解説文は必須事項であるが、順序としては、初回は文章のスタイルについて学ぶようにしたほうが効率よく学習できることもわかった。

テキストの形態については、印刷物ではなく電子書籍としている。近年の学生は、PC を入力用に、スマートフォンを調べ物や教科書の参照のためにと、機器を併用した取り組み方をする場合もある。履修者は200 名以上、コロナ渦においてはオンライン授業で、その後は自学自習を前提とした反転授業となっていた。そのため、テキストは個々人にとっての使いやすさに対応できるよう、同一内容で、epub 版、kindle 版、PDF 版で提供している。

2023 年度の授業は、対面式受講に戻り、学生間で相互に質問したり、教室で教員に直接質問したりできるようになったが、その際もテキストを用い、指定の場所を参照するよう指示する使い方もしている。新版テキストでも同様の使い方を想定している。

4. 練習問題の追加

練習問題は、学習内容の理解を補助するものとしてきたが、実践練習となる課題との関連性を明確にするため、課題の採点基準に直接関わる問題を扱うことに

した。

課題では、まずは書いた本人が提出前に見直す習慣を持つようになるようにした。そのため、各回課題では、校正・推敲して再提出をすれば加点するルールにしてきた。どこを直すべきかをあらかじめ指摘してしまうと、文章全体を見直す機会を失ってしまうので、ヒントとして、直す箇所がなければ満点の3点、1か所あれば2点、複数あれば1点とし、減点例を一覧にしたものを毎回配布していた。修正箇所は採点者が発見した部分と一致してもしなくてもどちらでも構わないが、見直して読みにくいところがあれば自分で書き直すという課題である。

この時の減点対象となるものには、例えば、主観的な表現の混入や、文法的なねじれなどがあり、授業が進めばルールが増えていくことになる。2024年度の新版テキストでは、これらの注意事項について理解を深め、意識を高めるために、事例を元に良い例と悪い例を作例し、2択の問題集を作成することにする。

事例は、学生から、授業作成や研究のための提出物利用の許諾を得ているレポートからとることができる。事例の利用については、これまで模範解答例として活用するケースはあったが、新版テキストでは、又平・

多田（2022）、又平（2023）の成果を踏まえ、練習問題にも反映させる予定である。

5. おわりに

2024年度のカリキュラム編成の変更により、これまで「コミュニケーション基礎」で行われてきたレポート作成法の授業は、「社会情報ナビゲーション」に移ることになる。2023年度までのようなExcelとの組み合わせによって文書作成をする授業ではなくなることから、その中で改訂なく継続して使えるテキストを作成する必要性が生じた。

時流に即したデータは授業で扱い、テキストには基本的なレポート作成ルールを可能な限りコンパクトにまとめる予定である。

謝辞

これまでテキストの改訂のために長らくご支援いただきましたことを感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 又平恵美子・多田知子・稲積宏誠（2021）「日本語文章ライティング教育の取組」『青山社会情報研究』13 96-98
- [2] 又平恵美子・多田知子（2022）「社会情報学部における文書作成指導の実践報告：1年次必修科目コミュニケーション基礎」『ライティング研究：青山学院大学アカデミックライティングセンター紀要』3-13
- [3] 又平恵美子（2023）「学生レポートにおける文章表現指導についての一考察」青山語文 53 216-205